

2020 年度 地域連携活動報告書

連携先名称：横浜市環境創造局

協定締結日：平成 30 年 10 月 22 日

活動状況：継続中

連携先窓口：環境創造局農政部農政推進課（地域づくり担当）

眞柄耕治（マガラ コウジ）ks-noseisuishin@city.yokohama.jp

活動資金：自治体予算

担当教員（所属）：福岡孝則（造園科学科・ランドスケープデザイン・情報学研究室）

活動体制（単位）：研究室

関連教員（所属）：鈴木伸治（生産環境工学科・地水環境工学研究室）岡澤宏（同・水利施設工学研究室）山崎由理（同・水利施設工学研究室）

活動目的：花と緑の分野に関する連携、食と農分野に関する連携、個別地域における課題解決に向けた協力などを目的とする協定である。2019 年度に開始した委託研究においては横浜市内の農地を対象にグリーンインフラ研究を遂行し社会実装につなげることを目的としている。

活動内容・成果：

「グリーンインフラ委託研究の実施」(2 年目)横浜市が推進する農地を活用したグリーンインフラの新たな取組に関して、農地整備設計に係る技術支援やモデル施工区画における雨水の浸透・保水効果等を検証し、得られた知見をとりまとめ、グリーンインフラの社会実装に活かすための研究を実施した。

課題・改善点：今年度は農地整備設計の技術支援、施工区における雨水の浸透・保水効果の検証、RKT 測量・UAV 調査及び解析を実施した。今年度は比較的豪雨が少なく、施工による雨水流出抑制効果が実証された。一方で切土・盛土区では植栽の定着率などに差異が見られ、次年度は追加で行う植栽工事に伴う変化の把握が求められる。研究プロジェクト全体としては、当該敷地における課題のみならず、横浜市の他の農地のグリーンインフラ実装に活かせる技術・手法の確率が求められている。

2-2 現地踏査

現地では、表 2-1 に示す日程で作業を行った。土壌試料に関しては、実験室に持ち帰り、分析を行った。写真 2-1、2-2、2-3 に作業時の様子を示す。また、プラソイラによる硬盤破碎施工の様子を写真 2-4 に示す。



写真 2-1 土壌水分センサと雨量計および集水柵の設置、土壌試料採取（傾斜改善効果検証）



写真 2-2 土壌硬度測定、土壌試料採取（硬盤破碎効果検証）



写真 2-3 土壌試料採取、土壌水分センサと雨量計および集水柵の設置（硬盤破碎効果検証）

現地調査の様子（生産環境工学科・地水環境工学研究室 現地調査の様子）